



尺八の息づかいを習う参加者

初体験に出かけよう！ 不知火町文化協会発足 10周年記念イベント

9月2日、不知火美術館・公民館で不知火町文化協会（中山健一会長）の発足10周年記念イベントが開催されました。これは当初、不知火美術館で開催中の書道展「第8回不知火書作展」（代表：三隅美陽さん）の出展者が書道体験の場を設けるという計画だったのが、文化協会員の賛同者が増え、13団体による体験コーナーや「不知火竜燈太鼓」「不知火土搗」などの舞台披露を含む一大イベントになったもの。体験コーナーを巡るスタンプラリーも行われ、多くの参加者が芸術・文化に親しむ一日となりました。

戦争・原爆を語り継いで 絵と写真を見ながら 「原爆と戦争のおはなし」

8月22日、松橋町出身の元幼稚園教諭・白木時（とき）さん（大阪府四條畷市在住）が、ウイングまつばせ視聴覚室で「原爆と戦争のおはなし」を開催し、小学校低学年から高齢者までの約40人が参加しました。

白木さんは、広島・長崎の被爆者の手記を基に制作した絵を前に、その悲惨さや「今こそ原爆・戦争について語ろう。自分のこととして考えよう」などと平和への思いを話しました。被爆者が一瞬のうちに傷つき、肉親やふるさとを失っていくくたりでは、目頭をぬぐう参加者の姿が多く見られました。

また、参加者からも、松橋駅での機銃掃射や熊本市の空襲などの戦争体験談が出されました。



被爆者の手記を基に制作した絵を説明する白木さん

文化の香り漂う絵画 三角美術クラブ 設立20周年記念作品展



みごとな作品にウっとり

三角町の三角美術クラブの設立20周年記念作品展が、9月3日から9日まで、三角西港の龍驤館でありました。西港築港120年に合わせ、会員16人が西港に残る洋館や戸馳島などの三角の風景を描いた作品約50点を展示しました。

同クラブは公民館生涯学習講座として昭和63年に発足。現在は、50～80歳代の主婦らが毎月2回、緒方吟也さん（東光会会員）の指導を受け、腕を磨いています。

緒方さんは「三角町の振興に少しでも役立てばと思っています。三角の素晴らしい景色をぜひ見に来てください」と語っていました。



三角港では海上自衛隊の輸送艇を使つての住民の避難訓練もありました

安全・安心のまちづくり 市全域で防災訓練

8月26日、風水害時の応急活動体制などの整備を目的とした市の地域防災訓練が、嘱託員・民生委員、市消防団や市職員、海上自衛隊などが参加して市内全域で行なわれました。大型の台風が九州に接近により市内が暴風域に入り、河川のはらんなどの被害が発生。最接近時は満潮と重なる恐れがあるという想定。

訓練では、災害対策本部（本部長・阿曾田清市長）を市役所内に設置し、台風接近・通過に伴う準備から被災対応のための対策本部訓練を3回実施するとともに、職員の配備体制の検証・防災資器材の把握を行いました。

また、市内行政区では、自主防災組織や嘱託員・民生委員が消防団と協力し、避難誘導訓練や安否確認訓練の中で、人の手助けを必要とする災害弱者を把握して、避難経路を地図上に記載するなどの訓練を行いました。

豊かな自然を後世に残したい 市環境保全隊が清掃作業

8月19日、市内で環境保護活動を行っているNPO法人の市環境保全隊（小篠武明理事長）が、不知火町と三角町で、沿岸清掃活動を行いました。

今回は、地区住民や建設業者、松合漁協など、約240人が参加。2グループに分かれて作業がありました。集められたごみは何と4tトラック2台分。木、竹、ペットボトル、缶、ビン、灯油缶、扇風機、テレビなどさまざまなごみを拾いました。

不知火町の二本松海岸や国道266号沿いで作業をこなした参加者は「今回は多くの参加がありました。活動の輪が広がうれしい限り。今後も『美しいまち宇城市』を目指したい」と語っていました。



海岸はきれいになり、汗をふくと心地良い風を感じました

次代を担う若人の提言 宇城管内市町職員意見発表会

総合政策課 橋口怜
「5年目にして考えていること」



社会福祉課 岡村洋輔
「社会保障の最前線で思う事」

収納課 佐藤歩
「市民の個人情報に関わる者として」



宇城広域連合主催による「宇城管内市町職員意見発表会」が8月17日にウイングまつばせ文化ホールで開催されました。これは、「次代を担う自治体職員として、どう行動すべきか提言を求め、職員としての自覚と士気の高揚を促すことで、地域に対し自主的、積極的に貢献できる職員を養成し、ひいては宇城管内市町職員全体の資質の向上を図ること」を目的に毎年開催されており、今年で8回目。宇城管内2市3町の採用後おおむね5年未満の職員8人（そのうち、宇城市からは3人）が、各市町の首長・幹部職員や一般聴衆の前で提言を行いました。